ふるさと納税で災害対策

Toilet Topics

8月8日に宮崎県沖で発生した地震を受け、「南海トラフ地震臨時情報」が発表されました。以降、返礼品として防災用品を受け取ることができるふるさと納税に人気が集まっています。

神奈川県藤沢市では、寄付金額1万円で簡易トイレ60回分を返礼品で受け取ることができます。こちらは7月に比べて8月は寄付額が5倍以上になったということです。

静岡県富士市では、寄付金が「簡易トイレの備蓄やトイレトレーラーの機能強化のために使われる」と用途を定めたふるさと納税もあります。こちらの返礼品は120ロール相当の備蓄用トイレットペーパーを受け取ることができます。寄付をすることで自分と寄付先の自治体の両方の防災対策になる“一粒で二度おいしい”ふるさと納税と言えるでしょう。

神奈川県藤沢市
寄付金額10,000円
簡易トイレ60回分

静岡県富士市
寄付金額13,000円～
みんな元気になるトイレ事業

ふるさと納税サイトでは、さまざまな自治体が返礼品として災害用トイレなどを用意しているのを見つけることができます。この機会にふるさと納税への寄付を通して防災用品の準備をしてみてはいかがでしょうか。

トイレ診断士芸人

佐藤満春のトイレな話 シーズン2

第25回

I LOVE TOILET! I LOVE TOILET! I LOVE TOILET!

すごいトイレのはなし

佐藤　満春（さとう・みつはる）
お笑いコンビどきどきキャンプの片割れ。趣味のトイレ好きが広がりをみせ、2011年11月電子書籍「佐藤満春のトイレ公論」を発表。自らもトイレ掃除に参加するなど自他共に認めるトイレ好きである。名誉トイレ診断士

佐藤満春です。7月25日に「すごいトイレのはなし」という児童書を出版しました。アメニティの山戸社長のインタビューも載っています。かねてから私自身がテーマとして掲げている「トイレをもっと楽しく!」「次世代の子どもたちに明るく正しい便育を!」ということを意識してGakkenさんから出版させていただきました。公立小学校のトイレはここ10年くらいでようやく洋式化が進みました。私が小学生時代（およそ35年前）はほぼ和式トイレでした。現在の公立小学校の多くは創立30年～50年が経過します。自宅のトイレは洋式、学校のトイレは和式、というねじれ現象がようやく解決されつつあります。小学校のトイレがなかなか洋式化されなかった大きな理由は「予算」です。当然ですが陶器でできている便器は耐久性が高く、壊れてもいない便器を洋式に変える予算を通すのにはかなりの労力がいります。そこを少しずつ改善してくださった全国の自治体の心ある地方議員の皆さんには心から御礼申し上げます。というのは、誰かがそこに気が付かないと延々と和式トイレのままでいることになるからです。決して和式が悪いわけではありませんが、トイレが明るく新しくなることで子どもたちの意識は全く変わります。「すごいトイレのはなし」を出版し、小学校に行って講義をしてきましたが、現在の小学生は既に「トイレに行くこと」を恥ずかしいと思ってる人はほぼいませんでした。これぞ僕のめざしていた時代です。そして、トイレについて学んでいく姿勢も既に出来上がっていたのです。SDGsへの関心が高まっていることもあるのかもしれません。世界にはまだまだトイレを使えない、トイレを使う環境にない国・地域がたくさんあります。その事実を知っていくだけでも考えは変わっていきますよね。今後の小学生の学びの1冊になりますように。大人が読んでも楽しいので是非どうぞ。

編集後記

この夏、熱戦が繰り広げられたパリの公共トイレ事情は日本とはずいぶん違っているようです。パリでは有料のトイレが多く、無料の公共トイレはサニゼットと呼ばれる「全自動洗浄トイレ」があるそう。一回使用する度に内部が水で洗浄されるため待ち時間が長かったり、故障中だったりとあまりあてにしない方が良いという話も…。「ところ変わればトイレも変わる」といったところですね。（セルベッチオ中嶋）

information!

第40回全国トイレシンポジウムが開催されます。
・日　時：2024年11月20日（水）10:30～16:30
・場　所：東京ビッグサイト 東展示棟 ＆ オンライン配信
・テーマ：能登半島地震の経験から考える
　　インクルーシブ防災と災害トイレ

あなたの町のアメニティネットワーク

アメニティ本部フリーダイヤル　0120-57-1110（コンナ イイ トイレ）

トイレを楽しくする新聞
かわや版
KAWAYABAN
2024 晩秋号 Vol.111
http://www.amenity-network.net/
Amenity Network
［発行所］株式会社アメニティ
〒221-0863 横浜市神奈川区羽沢町685
TEL:045-371-7676(代) FAX:045-371-7717
Copyright © 2004 AMENITY INC. All rights reserved

特集・後編

THE TOKYO TOILET 柳井康治（やない こうじ）氏インタビュー

**世界で活躍する16人のクリエイターにより
東京・渋谷区の17か所の公共トイレを
生まれ変わらせた
THE TOKYO TOILET（以下TTT）プロジェクト。
TTTを舞台に役所広司さんがトイレの清掃員を演じた
映画「PERFECT DAYS」でも話題を集め、
公共トイレをとりまく環境に
新たな風を起こしています。
プロジェクトの発案者で資金提供も行っている
柳井康治さんに、TTTのトイレ診断を担当している
山戸伸孝（弊社代表）がお話を伺った模様を
前編に引き続きお送りします。**

柳井康治
株式会社ファーストリテイリング
取締役 グループ上席執行役員
1977年生まれ。横浜市立大学卒業。三菱商事株式会社を経て、2012年株式会社ファーストリテイリング入社。

トイレにアートの視点を

山戸：TTTを語るうえで欠かせないのが『芸術、アート』という視点だと思うのですが、柳井さんはもともと芸術に造詣が深かったのでしょうか？ トイレばかり扱ってきた人間からすると、そもそもトイレと芸術というものがなかなか結び付かないのですが…。

柳井氏：僕は全く芸術の素養はないんです。絵も歌も下手だし、楽器も弾けません。ただ、TTTに参加いただいた方々はデザインとかアートとかクリエイティビティといったことを駆使して普段お仕事をされて、それによって世の中をよりより良くしてこられた方々です。排泄って人間の行う行為の中でも根源的な生理現象なので、そういった行為をする場所にクリエイティビティというものを注入すると、自分の生活の基礎的な環境がより良くなると感じました。そうなれば単純に嬉しいなって思ったんですよね。ご飯は美味しい方がいいし、睡眠もぐっすり眠れた方がいいし、人間の三大欲求じゃないですけど、そういった生理現象とか、排泄行為といったものがすごく快適だったり、意識が高いっていうことって、根本的により人間らしい生活につながっていくと思ったんです。

一個人ではなく公共の場所であれば、トイレの環境が良ければ街とか都市全体についても良いなと思うし、それを海外の方が日本に来た時に経験してくれたら、日本って国は、東京って都市は、渋谷っていう街は、こんな細かいところにも配慮してるんだなって感心してもらえたりとか、外国人だからってないがしろにされてないと感じてもらえるのではないかと思いました。

柳井さんの行動の中で、芸術や文化といった方向からのアプローチが素晴らしいなと思っていて、私はトイレ業界の人間なので、きれいに使ってもらいたければ「きれいに使ってください」といった直接的な表現になってしまうのですが、そういう表現は全く使わずに訴えかけていますよね。

今まで皆さんが努力されてきたことというのはずっとやり続けなきゃいけないのは大前提だと思うんですが、それで全部解決してるんだったら今ごろ世界中きれいなトイレしかないはずです。でも残念ながら現実はそうじゃない。だから、同じことを訴えるとしても、新しいアプローチをした方が良いのではないかと思ったんです。

2、3ページに続く

青字…山戸
黒字…柳井氏

THE TOKYO TOILET　柳井康治氏インタビュー

©2023 MASTER MIND LTD.

映画『PERFECT DAYS』は日本国内での興行収入13億円、観客動員数は95万人を超えました。世界でも80以上の国と地域で公開されました。

雑誌『SWITCH』では、世界的な写真家、森山大道によりTTTのトイレをとらえた写真が3年にわたって連載されました。こちらの表紙は恵比寿公園トイレで撮影されたもの。

『PERFECT DAYS』でもそうですし、トイレの写真集など、私には想像できない発想です。

トイレって本当不思議な場所ですよね。きれいに保たなければいけないけど、出てくるものは汚物って呼ばれるじゃないですか。体の中の汚いものが出される場所だからこそきれいであってほしい、その“きれい”と“汚い”が交差する場所なんです。人の心の中にも美しいものと醜いものが同居していると思いますし、世の中も良いことばっかりじゃなくて、悪いこともあるし、本当は混然一体としたもので世の中って成り立っている、トイレはそんな対立した要素が表れる一つの象徴的な場所だという気がしています。善人だろうが悪人だろうがトイレは行くし、様々な人に平等なものだなという気もしたので、だからこそ誰に対してもきれいなものであるっていうことは重要なことだというのを、このプロジェクトを始めてすごく痛感しました。

映画『PERFECT DAYS』はどのように生まれたか

TTTのトイレが完成していくにつれて、当初は、有名な方々が手がけてカッコ良かったり美しかったりするものが生まれたら、きっとみんな大事に扱ってくれるんじゃないかと勝手に期待していたのですが、意外にそうでもありませんでした。

そうですね。共用開始初日で便器にトイレットペーパー詰められたこともありましたね。

そういうことが普通におこるという現実に直面しました。清掃とかメンテナンスとか検査を行う方々って、めちゃくちゃ大変なお仕事だと感じましたし、それが世の中になかなか知られていない。そこで、最初は“清掃員あるある”じゃないですけど、清掃員が困っている現状を伝えられる短い映像作品を作りたいなと思ったんです。ヴィム・ヴェンダース監督に最初にオファーのメールを送った時は、ショートムービーを4つのエピソードぐらい撮ってもらえないかと依頼しました。一話10分から15分ぐらいの話が4つあれば1時間弱ぐらいになるから、それなりにひとつのコンテンツとしても成り立つのではないかと思っていました。まだヴェンダース監督が来日する前にやり取りした話になるのですが、4つのエピソードのショートムービーという話は受けてくださったのですが「10分は保証できない。短いものは2分くらいだ」と言われて、それは短かすぎると焦って「もうちょっと長く撮って欲しいんですけど…」とお願いしたのを覚えています。

それがどうして長編映画を作るという話になったのでしょうか?

ヴェンダース監督は建築家のドキュメンタリーもたくさん撮っていたり、建築が大好きな方なんです。なのでこれだけの有名な建築家の方々が参加しているのであれば、まずは実際のトイレを見てみたいと。「自分はその場所に行ってその建物を見ればインスピレーションが湧くタイプなのでそこに行ってみないことにはどういうものを撮りたいかまだ決められない」とおっしゃって。当時出来上がっていたトイレを一週間かけて自由に全部回って見ていただきました。それで意外にいいなって思っていただいたようで、それでアイデアがどんどん湧いてきて『PERFECT DAYS』という長編作品へ

THE TOKYO TOILET　柳井康治氏インタビュー

と話が発展していきました。それと、役所広司さんと一緒にお仕事をしたという思いが強まったことも映画制作の大きな要因でした。本当に幸運でしたね。

日本に来てから変わったんですね。共感してくれたのですかね。

共感してくださいましたね。もちろんTTTの理念には最初から共感をしてくださっていたのですが、建物を見て、本当にしっかりと考えて作られていると受け止めていただけたのだと思います。あとはやっぱり、海外の方にとっては、とてつもなくきれいに保たれている公共トイレが無料だということにすごく驚いていらっしゃいました。海外ではありえないことですね。

実際に映画も観ましたが、主人公の平山さんが朝起きる時間帯に僕らも起きて、車を運転してトイレに向かったりするので、本当に勝手ながら僕らメンテナンスをする人のために作ってくれた映画だなと思いましたね。

いやいや、もうそのつもりで作りました。少し偉そうですが、普段注目されることが少ない方々に光を当てたいと。役所さんも映画の撮影が終わってすぐに「清掃の方たち喜んでくれるかな」っておっしゃっていたんですよ。

めちゃくちゃ喜んでいます。嬉しかった。

それは良かったです。「清掃の方々のために」というのが最初の目的でしたからね。カンヌ映画祭とかアカデミー賞とか、華やかな側面に頭がいきがちですけど。僕自身が忘れがちになってしまうようなことを、役所さんはポンと言ってくださるので、あ、そうだったそうだった、日々メンテナンスしてくださっている方々のことを忘れてはいけないと思っていました。

カンヌで役所さんが主演男優賞を受賞された直後に私が柳井さんにメールを差し上げてお返事いただいたのが、「カンヌの賞はそれはそれですごいことだが、それよりも日頃のメンテナンスをすることの方がよほど大事だから、そっちをどうきちんとやっていくかっていうことを考えていきたい」ということが書かれていて、ありがたい限りです。

世界に誇る日本の公共トイレ

皆さんが本当にきれいに保ってくださっているから、役所さんともよく話しますよ。「どう?トイレきれい?」って。カンヌの効果もあって観光客がすごく増えた時期もあって大変だったと思うんです。清掃の方も写真をいっぱい撮られたりとか差し入れをもらったりとかあるそうですね。

撮影：永禮 賢、提供:渋谷区

劇中に登場したTTTのトイレは「ロケ地巡り」「聖地巡礼」という形で多くの人が訪れています。

そうですね。建築学科の学生さんとか、海外の方もたくさん訪れて写真を撮っていらっしゃいますね。

日本の公共トイレってまだ汚いとか臭いとか言われるかもしれないけど、このレベルを維持できているのは「誰かが日々きちんと仕事をしてくださっているからだよ」ということに気付けたり伝わったりすることがとても大事なことだと思っています。この映画を通じてそんな事が世の中に認識されたり、逆に「まだまだ汚いでしょ」なんて議論が出る時点である程度、成功だったんじゃないかと思う様にしています。

本当にありがたいことです。

役所さんが海外の映画祭などの上映会の舞台挨拶で「東京にきれいな公共トイレがあるんで見に来てください」というといつも大ウケするんです。つまり、海外の方からしてみたら「公共トイレがきれい」だなんて本当に驚きなんです。

そのためにも清掃の方にもこれからも頑張っていただきたいし、僕も引き続き協力していきたいと思っています。今後ともTTTのトイレをよろしくお願いします。

この度は、本当にありがとうございました。